

救い



分かっていて変わらないものがある
分かっていて変えられないものがある

天気雨の
ときにはさあ

悪魔が結婚
するんだって

日本じゃなくて
トルコだかどっかの
話だけだよ

それって
運命ってやつか？

悪魔の結婚って
いったいどんな
だろうねえ

新郎新婦は
どっちも悪魔なの
かな？

運命——
安っぽい響きだ

悪魔だってさ

まったく
おかしいよね



救いがたい

神すら
信じてないのに

てめえの吐くセリフと
同じ臭いがしやがる

※一部に流血表現を含みますのでご注意ください。もう出ちゃってるけどご注意ください。



お

おい…

いやあ
まいったね

シズちゃんから
逃げられたと
思ったらさあ

ちよつと先日
「お世話」になった
方々にお会い
しちゃってねえ

長話してるほど暇
でもないからご挨拶
してお別れしようと
したんだけど



追い回して追い回して
追いついた臨也は
くたばりかけていた

なんだどうした
勝手なことしてやがんな
ああでもこんなの
初めて見たなと思った



どうしたの

固まって

もしかして——

これって助けた方が
いいんじゃないか？

とか思っちゃっ
てる——？



あつちはどうも
名残惜しくて
仕方無かったみたいで

ばさつと、ね

あーまったく
勘弁してよね

ベタだけど俺って
君に助けられるぐらい
なら死んだ方がマシって
人だからさあ

それに非常識な君が
常識的なことする
なんておかしくない？

おかしい
よねえ？

おかしいよ

シズちゃんは結局
シズちゃんなん
だからさあ

ほんととは俺なんて
死ねばいいと思っ
てんだよ——？

……！
ったりめーだ！
ベラベラ調子こいて
しゃべりやがって！

そんなナリで俺の
目の前にいやがんだ

臨也てめえ
おしまいだ！

ほんと

「それでこそ」
——て感じ



こんなに世界が
綺麗なのにさ

そんなときどつかで
悪魔がよろしく
やってるなんて

よその国の人は
どーいう発想
してんのかねえ

天気雨の
ときにはさあ

悪魔が結婚
するんだって

悪魔……

まだ何か

そうだろ

隠してんだろ

そうに
決まってる

こいつが

んな
簡単に――

なんか
期待してるね？

残念

今回はもう
何も無いや

一目見たときから不快だった
口をきいてその場で殺そうと決めた

なんで

……

D
ギリッ

なんなんだよ——

てめえは——

出会ったときからそうだったてことは
そもそも俺たちはそうなる人間だったて
ことなのか——？



憎み合うこと——



人生の——一体どの地点から俺たちはここに向かっていったんだろうか



嫌いだっ——

てめえが

俺は

もしかしたら
あの時?

あの時?

あの時?

俺はっ——

この世に存在した瞬間から既にここに向かっていたんだろうか
ここに来ると決まっている道を歩いてきたんだろうか

最初から ずっと 俺の先にはこれしか無かったんだろうか



俺とこいつの先には これしか



知ってる



そこに意思は無かった

どちらの心も無かった

ああ――

これか

分かっている変えられないものか

天気雨ん
時ってさあ

はっ？

え？

周りがなんだか
非現実的に
見えるじゃない

悪魔が結婚する
ってえのはさ

普通じゃない状況なら
普通じゃない奴らが
普通じゃないことしても
普通だよー！

……って
思った人らが考えた
んじゃないろうか――

ま
まへ
頼

と、

思うわけだ
俺はね

いってっ

くっ

え

おまつ

傷

キモイ

え

ああ？

お前いきなり
何――

雨が止むまでは――

普通じゃないんだ
シズちゃん

雨が止むまで
世界は

臨――

雨が止む
までだ――

こんなの

そりやそーだ

普通じゃない

普通じゃ

ないもん
なあ！

俺だって――

君が嫌い
だよ――



何

なん…

あ

いも

血

血、傷
止めろよ

それより
こんなのが

お前

こんな
こと

こんな
ことが
大事かよ





て
めっ

臨也っ

このっ

クソ野郎っ
なん

臨也
お前っ

っ！

俺は君が
嫌いだ

君も俺を
嫌いだ

そっだろ？

……っ

雨が……

いつの間に……

それがこの世界の
「普通」で

それがこの
非日常の「日常」で

俺たちは

ここからどこへも
行けない――

早く――…

分かっている変わらないものがある
分かっている変えられないものがある

てめえ馬鹿かっ

んなこといいから
早く――

――…っ

ギリッ

「ぶっ殺す」！

だから

んなこと…
こっちが一番良く
分かってんだ

言ってやる
てめえ

「臨也」

「くそつたれ」

「ギギ」

君を褒めんのは
不本意だよ

でもね
シズちゃん

それが
「正解」だ

俺たちは ここから どこへも 行けない



最初に言ったよな

これは運命ってやつかって
これを仕組んだのは神なのかって

はっ…

はあ…





こんなので——



こんなの ないだろ

もしも神が
いるなら

ぞりっ

俺が

殺してやるのに





いないよ



そんなの



どこにも

神なんて きっと いたほうが救われない



いつか変わるのじゃないかと思ってもがくこと
いつか変えられるのじゃないかと思って足掻くこと
いつか救われるのじゃないかと願って生きること



希望は 悲しい
ひたすらに 空しい



呪う運命は無い

恨む神はいない

何が悪かったのでも
誰が悪かったのでもない

でも こうなった



だからさ

そんなのは
ない

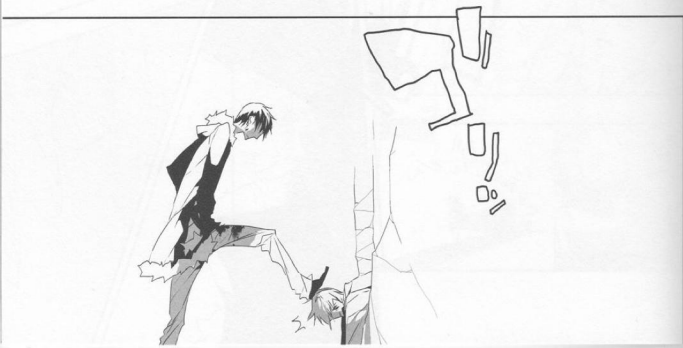
そんな日は
こない

君が殺したいの

俺だけでいいーから



「こうなった」 それだけがここにあった



浮気しないよーに

ネ♡





俺が
やる



変わる時があった
のかもしれない

こうじゃない今も
あったのかもしれない

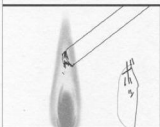
でもそう
ならなかった

ならなかったんだ
ただ
それだけだ

どうにもできない
大きなものが
そこにあった



俺のも
あの野郎のも



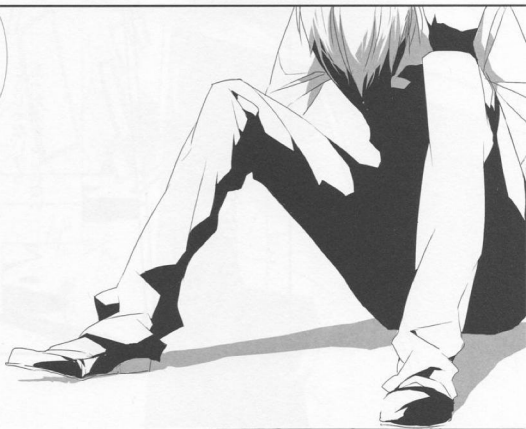
心なんか
そっちのけにした
何か大きなもの

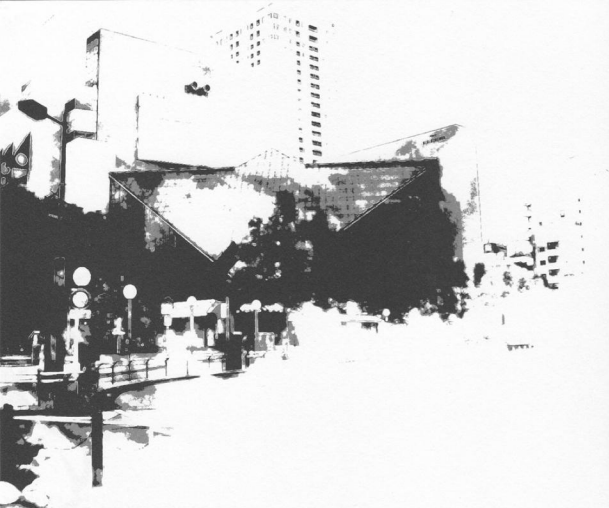


うるせえんだよ…

くそ…

死ね
—
…





なんでも飲み込んで
勝手に「生きて」いる

この街に似ていた——

救いが
著^{たい}者^{たい}
たち

こんにちは、平待です。

この本をお手に取っていただきありがとうございます。

静雄と臨也が仲悪くないと池袋は回らないんだぜ！みたいな心持で描き始めたんですが両想いでそんなこと言われるって相当哀れだなーとも思いました。

臨也は明らかに出血多量でぶっ倒れててもおかしくないですよ…どんだけ静雄の前で虚勢張りたいのお前…事務所着いたら倒れます。

頭でこうと思っててもなんかもうこれはどうにもならねえなあっていう時のこんちくしょう！っていう感じが出ていけばなーという本でした。

しかし両想いという言葉が驚くほど似合わないなーこいつら。幸せになれよー。

ここまでお付き合いいただきありがとうございます。

いつかまたどこかで。

平待

20100822 drr unofficial fanbook 02
presented by solaris/hrmt [plv:81346]
special thanks:kanazawa-insatsu
material:FUDGE GRAPHICS,yumemi-shironeko,nukoname,sora-aol

禁：オークション、転載、複製

